

<第76回調査>

2015年09月28日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2015年09月15日(火)13:00~2015年09月22日(火)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクストネオ』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの口座開設者にメールでアンケート回答URLを送付。

今回の有効回答数は850件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

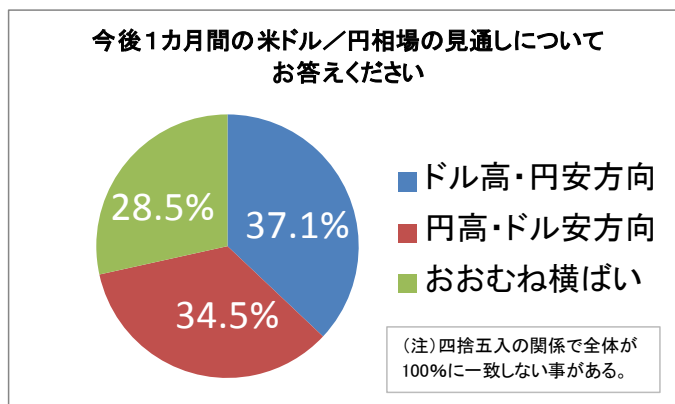
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第76回調査結果略報：ドルの方向感見通しが分散】

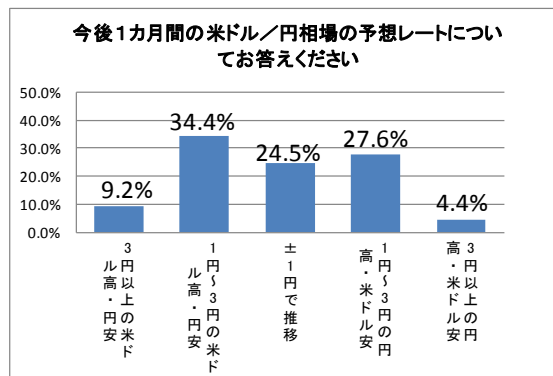
問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が37.1%であったのに対し「円高・ドル安方向」と答えた割合は34.5%であった。この結果「米ドル/円予想DI」は+2.6%ポイントとなり、前月(+38.0%ポイント)からプラス幅を大きく縮小させた。調査期間中の米ドル/円相場は120円ちょうどを挟んでのみみ合いとなった。米連邦公開市場委員会(FOMC)が17日に政策金利の据え置きを発表した事で、一部の利上げ期待の反動で一時119.00円付近まで軟化する場面こそあったものの、年内利上げの可能性が残る中で売りは続かなかつた。とはいえ、再び全ての米経済指標と国際金融市場の状況を勘案して利上げ時期を模索する展開に戻ったため、はっきりと上昇する事も難しくなった。こうした膠着感がFX投資家の見方を分散させたと思われる。 ※過去の米ドル円予想DIの推移はP6-7に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」が34.4%と最も多く、「1円～3円の円高・米ドル安」が27.6%、「±1円で推移」と答えた割合が24.5%、と続いた。「3円以上の円高・米ドル安」は4.4%、「3円以上の米ドル高・円安」は9.2%であった。回答割合は中央部の3つの回答に分散した形となった。調査期間中の米ドル/円相場の平均(終値ベース)が120.20円台である事と、「1円～3円の米ドル高・円安」と「1円～3円の円高・米ドル安」と「±1円で推移」の合算割合が86.5%に達した事から考えて、FX投資家らのおおよその想定レンジは117.20円から123.20円程度と推測できる。9月ほど膠着するとは考えられていないものの、大きな相場トレンドが出ると見るFX投資家はかなり少ないようだ。

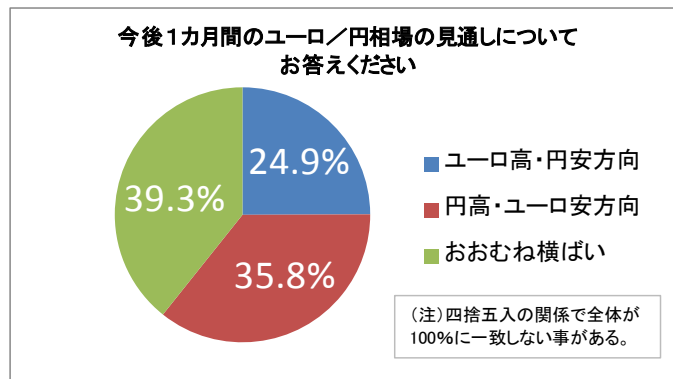


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

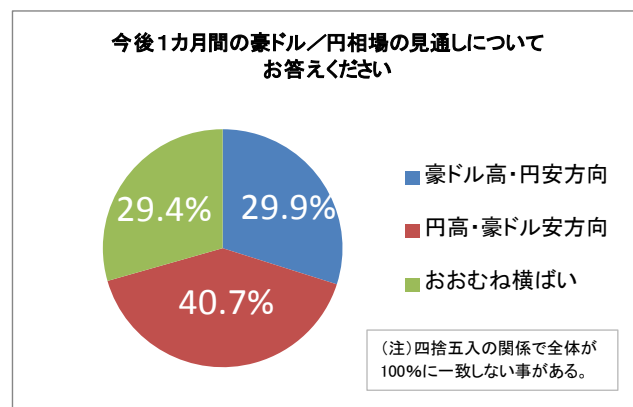
問3: 今後1か月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1か月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が24.9%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が35.8%であった。この結果、**ユーロ/円予想DIは-10.9%ポイント**と、9か月ぶりのプラスDIとなった前月から一転、再びマイナスとなった。調査期間中のユーロ/円相場は米FOMCの利上げ見送りを受けて上昇したユーロ/ドルに連れて一時137.440円まで上昇するも、その後は欧州要人らからユーロ圏経済の先行きを不安視する発言が出た事を受けて失速した。こうした中で、FX投資家の中にも再びユーロ弱気ムードが広がった模様だ。※過去のユーロ円予想DIの推移はP6-7に掲載。



問4: 今後1か月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1か月間の豪ドル/円相場の見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が29.9%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は40.7%であった。この結果「**豪ドル/円予想DIは-10.8%ポイント**となり、前回(-14.4%ポイント)からマイナス幅は縮小したが、4か月連続でマイナスDIを記録した。調査期間中の豪ドル/円相場は85円前後から一時87.50円台まで上昇したものの、その後は軟調で、84円台半ばまで軟化した。豪州の最大貿易相手国である中国の景気不安が根強い上、主要国株価が大きく値を下げの中でリスク回避ムードが強く、これが豪ドル/円の先行きに対する不安に繋がったものと考えられる。ただ、豪中銀(RBA)の利下げに対する姿勢はニュートラルなものに近くなっており、喫緊の利下げの可能性が低下している事がDIの低下に繋がったものとする。※過去の豪ドル円予想DIの推移はP6-7に掲載。

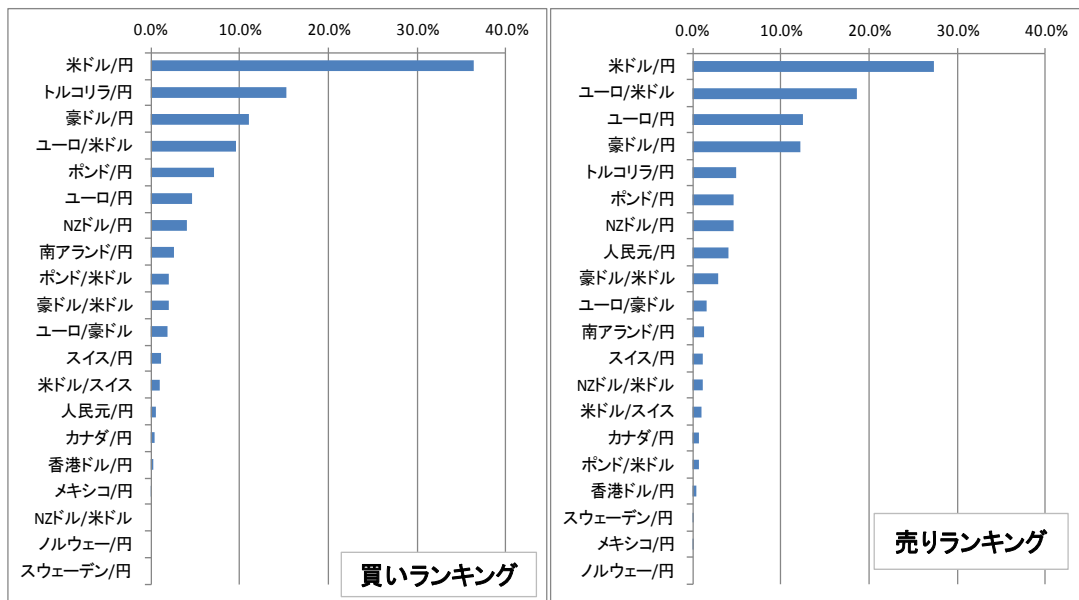


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目の通貨ペアは、米ドル/円が36.4%の回答割合を集めて第1位をキープした。以下、2位トルコリラ/円(15.3%)、3位豪ドル/円(11.1%)、4位ユーロ/米ドル(9.5%)、5位ポンド/円(7.2%)、と続いた。一方、「売り」で注目の通貨ペアは、1位米ドル/円(27.3%)、2位ユーロ/米ドル(18.6%)、3位ユーロ/円(12.5%)、4位豪ドル/円(12.2%)、5位トルコリラ/円(4.9%)となった。「買い」で注目の通貨ペアについては、米ドル/円が36回連続で1位となり、回答割合では2位以下を大きく引き離れた。トルコリラ/円の2位、豪ドル/円の3位も維持された。が、先月は4位だったポンド/円が5位に順位を落している。先月の急落以降、戻りの弱さが買いでの人気低下を招いたようだ。また、「売り」で注目の通貨ペアは18カ月ぶりに米ドル/円が返り咲いた。一方、ユーロ/米ドルは回答割合が前回(21.8%)から低下し、2位へ陥落。ユーロ/円の3位と豪ドル/円の4位は維持されたが、5位には先月は11位だったトルコリラ/円が浮上した。米利上げ期待を背景とする新興国通貨安の波に加え、政局不安や地政学的リスクの色が濃く、すでに大幅にトルコリラは下落しているが、調査期間中も主要国株価が不安定な中でさらに下げる可能性があると感じられたようだ。

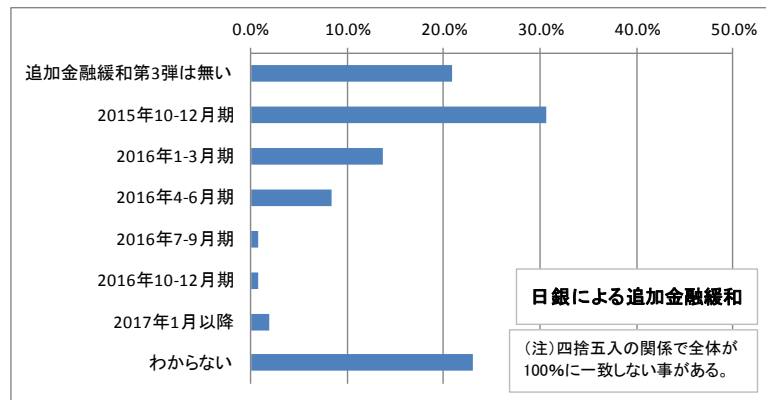


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

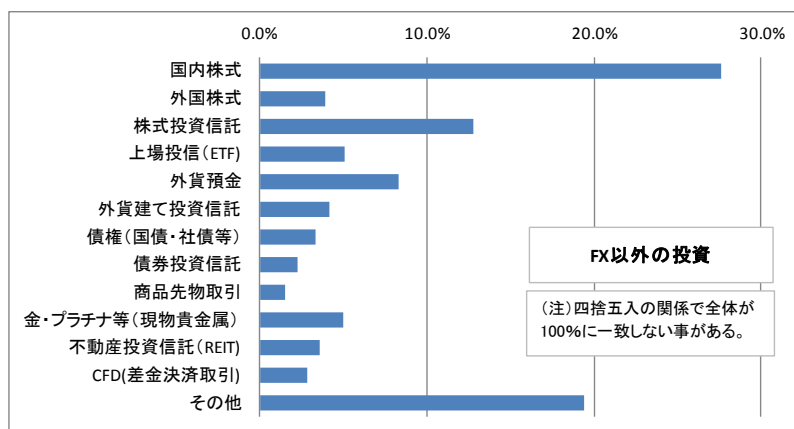
問6: 日銀による金融緩和第3弾の実施時期についてお答えください。(ひとつだけ)

今回の特別質問項目として、「日銀による金融緩和第3弾の実施時期についてお答えください」と尋ねたところ、「2015年10-12月期」との回答が30.6%と最も多く、次いで、「金融緩和第3弾はない」が20.8%、「2016年1-3月期」との回答が13.6%、「2016年4-6月期」との回答が8.4%と続いた。物価が伸び悩み、4-6月期の国内総生産(GDP)がマイナス成長となる中で、向こう半年内に追加緩和があると期待する向きが4割強存在する一方、黒田日銀総裁が積極的に追加緩和を実行しようと言う踏み込んだ姿勢を見せない事で、「追加緩和自体がない」と見る層も少なからずいる事が明らかとなった。



問7: 現在、FX以外で投資をしている金融商品は？(いくつでも)

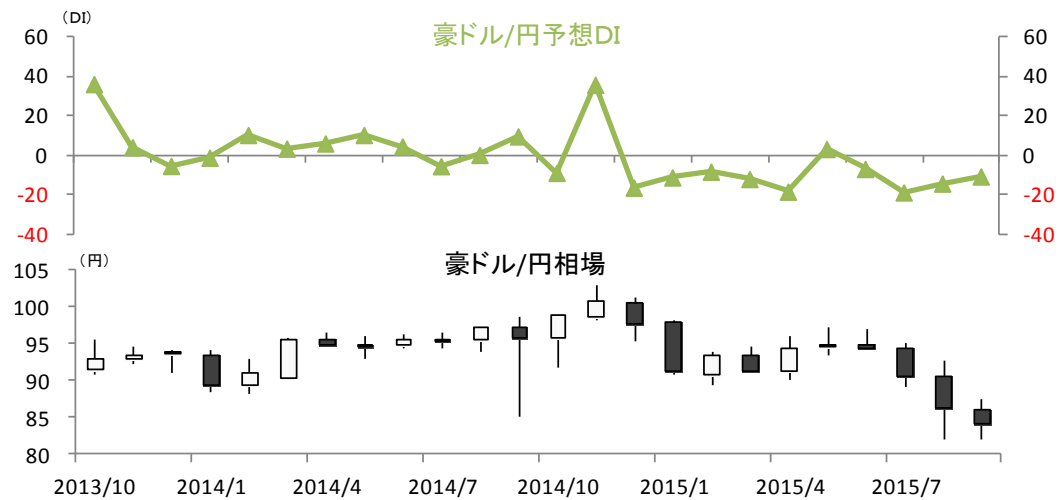
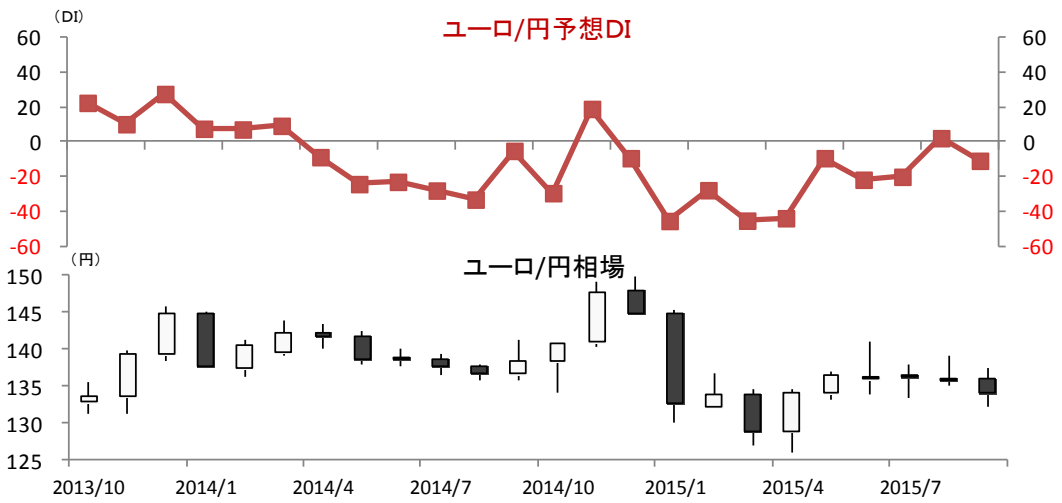
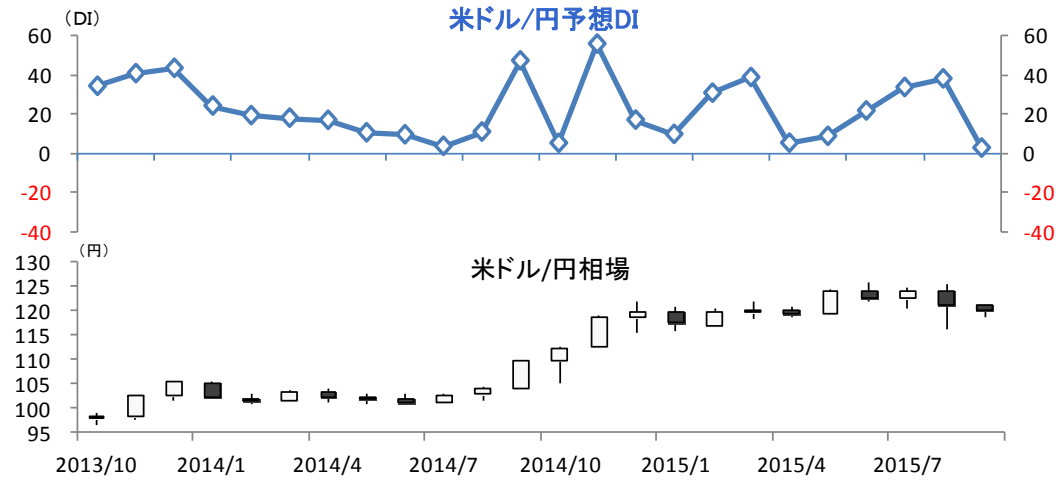
「現在、FX以外で投資をしている金融商品は？(いくつでも)」と重ねて尋ねたところ、「国内株式」との回答が27.6%と圧倒的に多く、「その他(19.4%)」、「株式投資信託(12.8%)」、「外貨預金(8.3%)」などが続いた。株式関連が最も回答割合を集める結果となった。日本の個人投資家にとって投資方法として定着した株式投資関連は、FXを行っている投資家にとっても近い存在のようだ。海外株式(4.0%)と合わせると、FX投資家における株式関連へ投資を行っている層は4割を超えた。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承いたします。

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第76回目となりました。調査開始から6年以上が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めて行きたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル／円			ユーロ／円			豪ドル／円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2013年	10月	54.8	20.6	34.2	40.8	18.4	22.4	53.1	17.1	36.0
	11月	53.2	12.5	40.7	34.8	24.7	10.1	31.8	27.8	4.0
	12月	59.5	16.1	43.4	48.2	20.7	27.5	27.3	32.8	-5.5
2014年	1月	47.2	23.1	24.1	37.2	29.7	7.5	28.1	29.4	-1.3
	2月	41.7	22.5	19.2	35.3	28.2	7.1	36.5	26.3	10.2
	3月	41.9	24.0	17.9	38.7	29.5	9.2	34.8	31.5	3.3
	4月	41.4	24.6	16.8	25.7	34.5	-8.8	35.4	29.5	5.9
	5月	33.9	23.5	10.4	19.7	44.0	-24.3	34.2	24.0	10.2
	6月	31.1	21.7	9.4	20.1	43.1	-23.0	30.4	26.0	4.4
	7月	27.9	24.4	3.5	17.8	45.8	-28.0	26.7	32.3	-5.6
	8月	32.6	21.8	10.8	14.7	47.9	-33.2	27.8	27.7	0.1
	9月	64.8	17.6	47.2	28.0	33.2	-5.2	36.0	26.5	9.5
	10月	39.4	34.4	5.0	18.3	47.8	-29.5	27.1	36.1	-9.0
	11月	70.0	14.2	55.8	43.0	24.1	18.9	54.0	18.4	35.6
	12月	48.9	32.0	16.9	28.8	38.2	-9.4	26.9	43.4	-16.5
2015年	1月	39.3	29.7	9.6	15.1	60.6	-45.5	26.2	37.5	-11.3
	2月	46.8	16.1	30.7	19.7	47.5	-27.8	26.4	34.8	-8.4
	3月	52.3	13.6	38.7	15.2	60.5	-45.3	21.8	33.9	-12.1
	4月	31.4	26.3	5.1	15.1	59.0	-43.9	23.4	41.9	-18.5
	5月	29.1	20.5	8.6	31.0	40.4	-9.4	32.2	29.1	3.1
	6月	43.5	21.9	21.6	25.4	47.2	-21.8	24.3	31.3	-7.0
	7月	49.1	15.5	33.6	23.6	43.7	-20.1	22.8	41.7	-18.9
	8月	51.1	13.1	38.0	30.9	28.8	2.1	24.1	38.5	-14.4
	9月	37.1	34.5	2.6	24.9	35.8	-10.9	29.9	40.7	-10.8

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com